

SHIN CLUB 253

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「成西園」 撮影：阿野太一

今月のトーク/monthly talk

引き継ぐこと

写真は、目黒区東山の小高い住宅街に完成した共同住宅です。オーナーのN様ご一家は、5年前、大きな庭のある木造住宅に1人住まいとなられたお父上の今後を見据えて、お父上とともにご実家を賃貸併用の共同住宅として建替えられることにしました。

N様はいくつかのハウスメーカーのモデルハウスを見学しました。しかし、収益性から敷地ギリギリの計画が示されたため、ご自分の感覚と少し合わないと感じ、建築士の友人に相談されました。「まずRC造を考えているのなら、施工会社から選ぶのがいい」とRC造の施工実績の多い弊社での施工を勧められました。「表参道周辺の辰の施工物件を見学して、やはり入居者に長く暮してもらうのなら、コンクリート打ち放しがいいと思いました。賃貸部分は1DK、夫婦+子供1人くらいのプランで、ペットも可能にしました。実は妹が猫を飼いたかったという希望があったんです。今は完成した賃貸住戸と一緒に住んでいます」とN様。

一方、設計者を決めかねていたN様に、弊社営業部長からコンペの提案が出されました。30代から40代くらいの若手の建築家3名に設計をお願いし、お庭をなるべく維持してほしいというお父上の希望条件を満たして、既存の住宅の配置も活かした麻生征太郎氏の案にご家族の意見はまとまりました。

東棟1階にオーナーであるお父上の住戸、2、3階のメゾネットにN様ご一家の住戸、西棟に6戸の賃貸住戸が入りました。

小学生と幼稚園のお子様2人の育児で忙しい奥様のご希望は、キッチンを大きくとった、家族皆が何をしているか一目で見えるようなオープンな部屋。

「2階の玄関を入れていきなりキッチンなのですが、友人が集まる機会も多いので業務用の強力なコンロも設置しています。昨年、コロナ禍で子どもが学校に行けなかったときにも庭で遊ばせることができ、子どもに料理を教える機会も作れました。3階の子供部屋は小さいうちは分けなくて、ホールのような使い方をしています。思春期になったら仕切る予定です」と奥様。

「STAY HOMEの期間も好きなゲームを家族皆でゆったりして、リビングにいる時間がほんとに長いですね」とN様。

「両親が守ってくれたこの土地を、自分も次の世代につなぎたいと考えています。独立して初めての新築という

ことで力を入れてくださった麻生さんは、ほんとに建築が好きなんだと感じました。これからもずっと相談にのっていただける若い方をご紹介くださって本当に感謝しています」とのことでした。



リビングでの家族の時間を楽しむN様ご一家

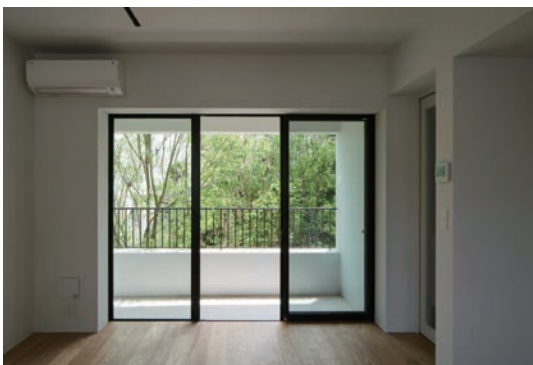
成西園



建物全景。平屋の駐輪場棟の左側がエントランス



2階オーナー邸、リビングダイニング



賃貸部のバルコニー



2階の賃貸住戸から中庭を望む



建物全景夜景

都心の自然を継承した集合住宅

東京都心部に建つ、中庭を持つ集合住宅である。「建て主が求める事業性」と、「都市の自然と住む豊かさ」の両立を目指した計画である。

敷地は、車や人の往来が多い繁華街から少し距離をおいた、落ちついた住宅地の中にある。2～3階建の戸建住宅、小規模の共同住宅が周囲に建ち並んでいる。建て主はここで広い庭を持つ木造2階建の日本家屋に住んでいたが、「土地の相続」という課題に対して、賃貸住戸を併用した住居をつくり、経営することで資産継承していくことを選択した。

庭には大小様々な樹木が密集して生え、外から敷地内が窺い知れないほどであった。それら樹木は、集合住宅の庭として機能させるには少し重く、少し暗く感じられた。建物の検討と同時に、造園家を交え、残す樹木、間引く樹木を選別し、新たに加える植栽のイメージについても検討を重ねた。事業計画、市場調査から建設可能な床面積、適当な賃貸住戸面積・数を割り出すと、大きく庭を残せることがわかった。一かたまりの住居と大きな庭。建て主との対話の中で、庭を大きく残すことを決定し、それを実現する形を探った。

できあがった建築は、地下1階・地上3階建ての住居棟と、平屋の駐輪場棟、大小2つのRC造の建物からなる。これまで住んでいた木造住宅にならい、敷地西側から北側道路に沿って、鈍角に開いたL字状に住居棟を、東側に駐輪場棟を配置し、敷地中央に大きく庭を残した。

奥行き6mのL字形の平面をできるだけ単純に区切り、各住戸を計画していった。どの住戸にも庭側に向かって大きな開口部とバルコニーを持たせた。庭に大きなシマトネリコを4本、建物のすぐそば、触れられる距離に植えたことで、階数に関わらず、庭と住戸の距離がぐっと近づき、同時に住戸間の視線の交差を和らげた。

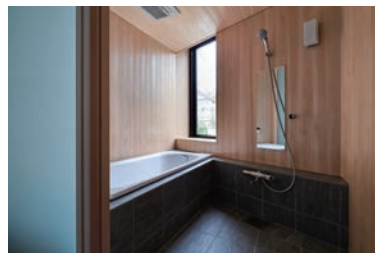
用途地域は第一種低層住居専用地域。東西に長いボリュームを北側に配置することは高さを取りたい場合（日影斜線上）不利になるが、建物を地面に少し埋めることで必要な天井高さを確保した。賃貸部分は同じ平面形状でも庭との関係に違いが生まれ、1階は窓辺に座ると土が触れられ、2階は樹木の葉に触れられ、3階は抜けのある空を見ることができる断面となった。

住居内部には木漏れ日が差し、風が抜け、窓前には緑が広がる。内外がつながる気持ちの良い空間となった。庭には草が生え、樹木は季節ごとの表情を見せる。鳥や虫が飛んでくると周囲の環境と一体となったような印象を受けた。門から各住戸へは中庭を通るので、住民同士が挨拶を交わすだろうし、ベンチを置けば住民共有のもうひとつのリビングルームのようになるかもしれない。事業収支や利回りを最優先しなかったことで得られた都市の中の自然。その豊かさを存分に味わうことができる、集まって住む環境が実現できたのではないだろうか。

（麻生征太郎氏 談）



オーナー邸 2階から3階への内階段



オーナー邸 1Fバスルーム

構造：RC造 規模：地上3階 地下1階
用途：長屋兼共同住宅（賃貸併用住宅）
設計・監理：麻生征太郎／麻生征太郎建築設計
構造：我伊野構造設計室 設備：環境プランナー
造園設計・施工：阿波三松園
不動産アドバイス：TATO DESIGN
施工担当：尾内
竣工：2020年4月
撮影：阿野太一

「オンライン、でも人とのつながりはより大切に」

麻生征太郎／麻生征太郎建築設計



「House in Manipur」(2017)

Seitaro Aso

今月は、「成西園」の設計者、麻生征太郎氏にお話を伺いました。麻生氏は、大堀伸氏主宰の設計事務所、「ジェネラルデザイン」の出身で、弊社の施工物件を数多く担当されていました。

—武蔵野美術大学造形学部で建築を学ばれて、東京藝術大学大学院ではどのような研究をされていたのですか。

麻生：片山和俊先生の研究室で、集まって住むことについて研究をしていました。中国客家の調査などにも行きました。

—その後、ジェネラルデザインに入られて、弊社も数多く施工させていただいている事務所ですが、ご縁がたくさんその時にうまれていたようですね。

麻生：2006年～2014年在籍していました。最初に担当させていただいたのが著名な女性デザイナーの「桜上水の住宅」、それから「千駄ヶ谷の住宅」、広告代理店の事務所ビルである神宮前の「Zefaビル」、そして千代田区の4階建の住宅「富士見2丁目計画」、合計4つの仕事を辰さんとご一緒させていただきました。独立してからは、荻窪の住宅の改修工事、原宿キャットストリートで住宅をテナントビルに変更するコンバージョンの設計も行いました。神宮前には辰さんの仕事、本当に多いですね。

—打ち放しコンクリートのご経験は相当積まれたわけですね。

麻生：一昨年はMEコーポレーションさんの杉並の集合住宅が竣工しましたが、同時期に辰さんも中目黒で同社の集合住宅を施工していましたね。今はコーポラティブハウスの住戸インフィルの設計が2件、恵比寿で小さなアイラッシュサロンの改修工事がスタートしています。それから、インドで温浴施設の設計をしています。

—インドですか。どの辺でしょうか。

麻生：北部の首都デリーから南西に30kmほど行ったグルガオ

ンという都市です。近年特に開発が進み、高層マンションも次々とできて、日本人の駐在員がたくさんいる地域です。

10年来のインドの友人からの紹介でスタートしました。コロナの前にプレゼンをして契約。ところがこの状況で、インドも日本も出入国が難しい。もう中止かなと思ったら、11月に「やるぞ」と連絡が来て。オーナーは土木・不動産・交通・ホテルなど多数の企業を持つ経営者です。設計事務所も持っており、そちらのスタッフがローカルアーキテクトの役割を担っています。

私自身は片言の英語が話せるくらいですが、その友人が法律なことや通訳以外にもいろいろとコーディネート、サポートしてくれています。現地へ行き、打ち合わせをし、帰国してからも電話やメールでやりとりを重ね、徐々にプロジェクトが具体的にってきました。

—最近は、観光だけでなくビジネスで来日する方も増えているようですね。

麻生：オーナーご自身も何度か来日されており、日本の文化に興味を持たれ、今回のプロジェクトが始まっています。とはいえ、和風の意匠そのものが求められている訳ではありません。場所の魅力を引き出し、両国の特徴が混じりあったようなデザインにできればと考えています。

—なにか、ご縁が増えてお仕事の展開があるといいですね。コロナ禍で、オンラインでのやり取りも一層進むことになりそうです。

麻生：そうですね。様々なテクノロジーを使って、アイデアの説明は可能だと思います。ただ直接顔を合わせて得られる情報もあるので、そういったものを取りこぼさないようにしないと、と思っています。そういう意味でも人との関わりをより積極的に、大切にしていきたいですね。

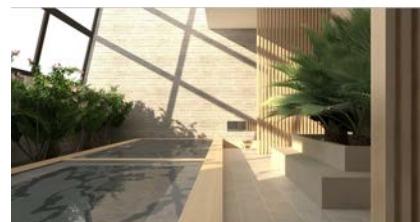
—本日はありがとうございました。

麻生 征太郎 (あそう せいたろう)

1978年 愛知県生まれ
2002年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
2006年 東京藝術大学大学院美術研究科終了
2006-2014年 ジェネラルデザイン勤務
2015年 麻生征太郎建築設計設立
2017年 株式会社麻生征太郎建築設計設立
2020年～日本工業大学非常勤講師

主な作品

CAT Project、House in Manipur、BLN、House in Okazaki など

CAT Project (2016)
住宅から店舗へのコンバージョングルガオンの温浴施設
Gurugram"FURO" project (進行中)グルガオンの温浴施設の計画で
現地の設計事務所と打ち合わせ

「ZENグループ 新入社員研修」 3月 於：ZEN 伊豆山研修センター

毎年恒例のZENグループ全体の新入社員研修が、今年も伊豆山研修センターで行われました。昨年に続き、新型コロナウイルス感染予防を意識して、通常3週間の研修期間を2週間に縮小し、マスク装着の上、作務（さむ）を中心に野外での労務研修を行いました。「研修生たちを見ていると、清掃よりも、丸太で階段を作ったり、造園を作ったりと、自分たちでモノを作る作業の方がモチベーションが上がるみ

たいですね。自分たちがやったことが日に日に増えてくるので」と研修を案内して下さった(株)ユニホー管理本部の目黒修平氏。「研修期間中は各自の自主性に任せています。リーダー選出時も初日に『やりたい人！』と呼びかけたら、男女問わず自主的に手を挙げてくれる子が多かったですね。入社後も各々の場で活躍できる逸材が多いのではないですか。数年後が楽しみです」と感心されていました。

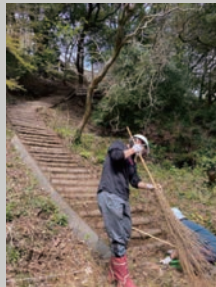


作務を終えて全員集合

11人構成の4つの班に配属されて、グループ他社の新人たちと協力しながら与えられたミッションに取り組んだ辰の6人の新人たちに感想を聞きました。

A班：岸崎将大

1週目は全体リーダー、2週目はサブリーダーをやらせてもらった。リーダーという経験は初めてで、初対面の皆をまとめられるかとても不安だったが、皆とても真面目で、指示を出したらその通りに動いてくれた。



昨年制作した階段の清掃

おかげで、リーダーという役職をととても楽しんで務めることが出来た。最後には、皆とても仲良く終わることが出来たので最高の研修だった。

A班：柴道明花

班のリーダーをやらせてもらい、工程通り完成できるように時間管理をしたり、役割分担をしながら作業をしたため、周りを見て状況判断をし



紫陽花の苗木を運ぶ

なければならず、身をもって管理することの難しさを体験できた。

また、お客様視点になって考えることや、どうしたら作業効率良くできるかなど、これから仕事をしていく上で必要な思考回路を学べたので今後に活かしたい。有意義な研修ができて良かった。

B班：土屋祐一郎

B班では、メンテナンス用のハンドホール付近やそこに続くまでの道のりを埋め戻す作業を中心に行った。作業を始めた頃は、ひたすら土を窪みに埋めていくといった単純作業でつまらない作業なのではと予想していたが、利用する人のことを考えると、「凸凹して歩きにくいのか」「傾いていないか」等を意識するようになり、作業の質も丁寧になっていったように思う。これらの経験から、これから施工管理を学んでいく上でとても大事な要素に気付けたのではないかと感じた。

C班：野木玲央菜

C班は阿主南寺周辺の植栽や清掃作業を行った。私たちの班は、他班に比べ、少人数に分かれて作業することが多かった。そのため各場所の進捗状況を把握するのが難しかったが、全員で進捗状況の共有を意識的に行ったことにより、順調に作業を進めていくことが出来た。指導員の方の「完成をどこにするかはお客様の目線になって考えればわかる」という言葉が忘れられない。



阿主南寺裏 雑草 刈り

B班：大塚陽菜

今回の研修でチームワークの大切さを学んだ。私は班のリーダーを務めるからには業務や指示を全て1人で行おうとしていた。しかし班員が意見を出してくれたり、各々行動している姿を見て、頼る大切さも学ぶことができた。また積極的にコミュニケーションを取ることで班員の良さを引き出して、チーム全体として向上することができたと思う。研修で学んだ事を忘れずに日々学び、成長し続けたい！



丸太階段の埋め戻し

D班：矢沢茜美

一面芝生の傾斜面。シャベルで地面を掘り起こし、丸太を設置。土で固定し計51段の丸太階段を作った。最初はミスも多く2週間で完成できるか不安だった。何より大変だったのは、丸太と地面の隙間を土で埋める作業だ。終わりが見えず、何度も挫折そうになった。しかし、グループで励まし合うことで目標を達成することが出来た。最後まで笑顔の絶えないD班で活動でき、貴重な経験となった。

「新入社員 辞令授与式」 2021年4月1日



岩本社長より、ZENグループ研修を無事に終えた各新入社員へ辞令が渡されました。本社研修後、1か月の現場研修を経て、本配属となります。

- 式典内容
- ・ 辞令授与
- ・ 新入社員自己紹介
- ・ 集合写真撮影

「A邸 新築工事」 地鎮祭 2021年3月26日



自然を五感で感じる住宅を安全第一で建設させて頂きます。

構造：RC造
規模：地下1階、地上3階
用途：事務所併用住宅
設計：吉原組
監修：GREFICA
完成予定：2022年4月

編集後記

・武蔵小山駅前の洋楽ファンにはおなじみの「ペットサウンズ」ビル。先日この店を訪れた弊社吉田健司監査役は小紙251号をご覧になったオーナー森様から「うちも辰に建ててもらったんですよ」と聞いてびっくり。SHINCLUBがご縁をつなぐことができて、うれしい限りです。

(株)辰通信 Vol.253 発行日 2021年4月10日

編集人：松村典子 発行人：岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。

バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

